Nitobe College, Hokkaido University

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌

ACROSS

2023年12月1日発行

No. 4

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌
ACROSS

〈目次〉

1. 新しい新渡戸カレッジに向けて
2. 同窓生の近況
3. 教育プログラム―学部教育コース
4. 教育プログラム―大学院教育コース
5. 新渡戸カレッジの現況
6. フェロー・メンター・教員の紹介
7. 教員からのメッセージ
新渡戸カレッジ同窓生の皆さんへ
ウェブサイト・フェイスブック
アドレス紹介

①札幌農学校第 2 農場
②花木園の新渡戸稲造像
③大野池

新しい新渡戸カレッジに向けて

北海道大学新渡戸カレッジ
大学院教育コース副校長補佐・
教育支援責任者
谷　博文

本年 5 月より新型コロナウイルス感染症が法制上の 5 類に分類され、人々の往来を含めた社会活動がコロナ禍以前に戻りつつあるようです。各種イベントが何の制約もなく開催され、外国人観光客が街に溢れています。社会が活気を取り戻していくのを実感しています。大学の授業やイベントも従前に戻り、コロナ禍で減少していた新渡戸カレッジ入校者数は増加しつつあります。もちろん感染症法上の分類が変更になったからと言って、コロナウイルスの蔓延が収束したわけではありません。8 月現在でも札幌市の下水サーベイランスでは高い濃度レベルのコロナウイルス RNA が検出されています。ウイルスとの併存が定着したのでしょうか。いずれにせよ引き続き注意が必要です。一方で、ウイルスの遺伝子が宿主のゲノムに取り込まれ、その進化に寄与してきたことが最近の研究で明らかにされつつあります。ひょっとすると私たちは、人類の次の進化の入り口に立っているのかもしれません。

2013 年度に学部生対象の新渡戸カレッジが、2015 年度からは大学院生対象の新渡戸スクールが開校し、2019 年度には学部・大学院を統合した新渡戸カレッジがスタートしました。この間、本特別教育プログラムは一貫して文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業の支援に基づいて運営されてきました。その支援が 2023 年度で終了となり、次年度よりいわゆる自走化がはじまります。これを機に、新渡戸カレッジは再び新しく生まれ変わろうとしています。弥（ゆはず）副校長を中心とするワーキンググループ等で議論を重ね、これまでの新渡戸カレッジの実績を踏まえた上で、さらなる発展と質的向上をめざした新たな枠組みを構築しました。具体的には、これまでの基礎およびオナーズの 2 つのプログラム（それぞれに学部教育コースと大学院教育コースの 2 コース）を、オナーズプログラム（HP、学部カリキュラムおよび大学院カリキュラム）のみとし、基礎プログラムの代わりに全学生を対象とするプレプログラム（PP、同 2 カリキュラム）が提供されます。新渡戸カレッジ HP への入校には、原則としてそれぞれのカリキュラムに対応した PP の修得を必須としています。その一方で、HP 学部カリキュラムを一定以上の称号で修了した学生は、大学院の PP 科目の修得が免除されるなど、これまで以上に学部から大学院への連続性を強化しています。詳しくは新渡戸カレッジ web サイトや新しいパンフレット等をご覧ください。

枠組みや制度が変わろうとも、新渡戸カレッジの教育上の理念に変わりはありません。全学生に開放した PP を通じて、より多くの学生に新渡戸カレッジの教え・学びを広めていくことができます。そして、新渡戸カレッジ生を対象とする HP では、さらに高いレベルの教えと学びが実践され、よりよい社会へと力強く牽引する多くの人材が北海道大学から巣立っていくことと信じています。これをご覧になっている皆さまには、新しい新渡戸カレッジを注意深く見守っていただくとともに、引き続きご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆同窓生の近況◆

社会課題解決を目指して学び続ける

サーボウン（神）明里
株式会社マクロミル
グローバルリサーチ本部

2020年3月　学部教育コース修了
2020年9月　大学院教育コース（基礎）修了

北海道大学大学院文学院を修了後、株式会社マクロミルグローバルリサーチ本部でリサーチャーとして勤務しております。外資系企業の日本国内調査や日本企業の海外調査を担当し、外資系企業の日本進出、日本企業の海外進出等の支援をさせていただいております。

振り返ってみますと、新渡戸カレッジの各プログラムを通じて学んだうち、特に「課題解決力」と「チームワーク力」が今の仕事に活かされているのではないかと思います。「課題解決力」はお客様が抱えているビジネス課題にどのようなアプローチで調査を実施すれば課題解決につながるのかを考える際に、そして、「チームワーク力」は異なるバックグラウンドを持っている社員と協働して一つのプロジェクトを遂行する際に役立っていると考えております。この二つの力は、FSP、国際インターンシップ、国際ボランティア、交換留学と学生時代にステップを踏みながら挑戦させていただいたおかげで身についてきたものだと思います。こういったプログラムに積極的に挑戦するよう、背中を押してくださった先生方、フェローの方々にとても感謝しております。これからも社会課題の解決に貢献できるビジネスパーソンを目指して、この二つの力を磨き続けます。

Think Globally, ローカルで行動せよ

真船創太
株式会社 FoundingBase

2020年3月　学部教育コース修了

自分の殻に籠もっていた高校時代の反動で、大学内外のイベントに毎週参加したり、意識高い系の大学生活を送っていました。それゆえ良くも悪くも、“学生ライフ”に馴染まず、世界の広さや自分の無力感を実感しました。その中で、今でも尊敬できる人に出会えたことが一番の収穫で、後先考えず“バカ”をしなかったことが一番の後悔です。「社会貢献」だけの就活から逃げ、4年の後期に休学届を書いて、地方の団体でインターン。共感を生むビジョンを掲げ、その実現のために命を燃やしている方たちを見て、グローバルという言葉に囚われていた僕は、半径5mから世界をつくりたいと心から思ったのでした。

そして現在は、美唄市という小さなまちで、シティプロモーション事業を推進しています。豊かな暮らしを築くために、まちの方たちと未来を語り、それを一つひとつ形にする地道な活動です。それでもなりたい姿、つくりたい世界に進めていると幸福を確かに感じています。どんなところでも良いと思います。こんな風に生きたいとか、こんな世界をつくりたいとか、自分の身体でリアルに触れることで、世界の広さ、そして面白さを感じてほしいなと思います。

ハードで最高なゲームを一緒に楽しみませんか。

新渡戸で開けた予想外のキャリア

針ヶ谷元基
フォースタートアップス株式会社

2018年3月　新渡戸スクール（基礎）修了

北海道大学大学院農学院を修了し、フォースタートアップス株式会社で新興企業支援を行っております針ヶ谷元基と申します。

私は学生時代に土砂災害を研究していましたが、現在は当時の専門性とは異なるフィールドで奮闘しています。そのきっかけの1つが新渡戸スクールだったと感じています。

大学院進学後に、シラバスで目に留まったことがきっかけで新渡戸スクールに参加しました。私は小中学校の大半をオランダで過ごしていたこともあり、当初は久々に英語を喋る機会が欲しいと考えていました。実際にプログラムに参加し、様々な国籍の方々とのチームワークを行うなかで、将来インターナショナルな仕事をしたいと思うようになりました。

そのため、卒業後は独立行政法人日本貿易振興機構（通称：ジェトロ）に入構し、東京と北海道で中小企業の海外展開のご支援や海外機関と連携し地域からイノベーションが生まれる環境づくりに取り組みました。その後、より日本のイノベーションに貢献したいと思い、思い切ってフォースタートアップス株式会社へ転職しました。

まだまだ道半ばですが、こうしたキャリアを歩んでいることは、新渡戸スクールに参加することができたためと感じています。

多様性の中で可能性は生まれる

小出浩明
株式会社日立製作所
研究開発グループ

2019年9月　院教育コース（基礎）修了
2020年9月　院教育コース（オナーズ）修了

私は北海道大学大学院工学院の修士課程を修了後、（株）日立製作所の研究者として脱炭素技術の研究開発に取り組んでいます。企業研究者として研究活動はもちろん、新技術の社会実装や知的財産の取得といった幅広い業務に奔走している毎日です。改めて振り返ると、新渡戸カレッジで得られた経験は社会人生活でも大きな糧となっています。

新渡戸カレッジでは、専門分野や国籍といったバックグラウンドが異なるメンバーとチームを形成して課題解決に取り組む、実践型の講義に参加しました。多様性に富んだチームほど様々な角度からの意見が出てくる一方、メンバー毎に議論のスタイルが異なるため、最初は満足な議論ができず苦しい経験もしました。しかし、座学と実践を繰り返すうちに、メンバー全員が力を発揮し、チームとしての総合力を最大化するための考え方や振る舞いが身についてきました。まだまだ勉強中の身ではありますが、本講義を通して大きく成長できたと実感しています。

また、新渡戸カレッジで出会う人との繋がりも貴重な財産です。私自身、在学中はもちろん、卒業後も同級生やメンター、先生方との交流から沢山の刺激を頂いております。皆さんも新渡戸カレッジのネットワークを活用して、実りある学生生活をお過ごしください。

教育プログラム紹介——学部教育コース

■グローバル基礎科目

基礎プログラムの必修科目で、仮入校の1・2年次生が履修します。春ターム「国際理解と海外留学」では国際経験の豊富な講師陣によるオムニバス講義、夏ターム「リーダーシップとチームワーク」ではグループワーク中心の授業を行っています。
2022年度夏タームは、札幌市まちづくり政策局のご協力を得て、課題提示と質疑応答、最終発表のご講評まで担当の方にご参加いただきました。また、昨年に引き続きチューターが授業をサポートし、カレッジ生がタテヨコにつながる機会を提供しています。今後もカレッジの教育目標に沿うよう、本科目の内容をさらに更新していきたいと思います。

■セルフキャリア発展ゼミ

自らの未来を構築するための力を養うことを目的とする、フェローと学生による集団的伴走支援を中核としたキャリアセミナーです。2022年度は北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川で1泊2日の合宿を行いました。合宿は3年ぶりの再開で、オンラインやキャンパス内で実施した時よりも、カレッジ生とフェローとの親睦が深まり、活発な議論が行われました。日常空間から離れて、キャリアについてじっくり語り合うためには、合宿がやはり必要不可欠であることを再確認できました。

■フェローゼミ

基礎プログラム生の必修科目で、担当フェローの指導のもと、少人数の演習形式で行われる課題解決型授業です。
2022年度は7つのテーマに分かれて、現代社会が抱える問題についてグループで解決策を検討しました。最後の成果発表の場では、ゼミをサポートするカレッジ上級生のチューターが各ゼミの発表に対して統括フェローとともに講評を行いました。今後も関係者やチューターの支援を受け、より充実した授業になるよう改善を図っていきます。

■対話プログラム

カレッジ生がフェローと一対一で対話し、リーダーとしての資質を磨くプログラムです。2022年度もオンライン面談を中心に行いつつ、一部は学内での対面方式も取り入れました。今年度初めてフェローと対面する機会を持った学生もいましたが、その様子を通して、対面での対話の魅力を再確認しました。
2023年度は最終年度となるため、より充実した対話を実現するために、対面での対話の機会をさらに増やすことを計画しています。

■海外留学

「海外留学」はカレッジ生の国際性涵養を目的とした必修科目で、交換留学、短期留学スペシャルプログラム（短期SP）、国際インターンシップ（国際IP）、学部専門レベル短期留学などが含まれます。2022年度、受入をオンラインに限った一部の協定校を除いて、ほとんどの学生が実際に渡航することができました。一方、引き続きオンラインでの短期留学を実施することにより、長期の留学が困難なカレッジ生に対して「海外留学」の単位を取得する機会を提供するとともに、留学のモチベーションの向上に繋げることができました。

教育プログラム紹介——大学院教育コース

新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度と2021年度の大学院教育コースの授業等はオンラインあるいはハイブリッドの形式で行ってきましたが、2022年度は十分な感染対策を講じることで対面での実施が可能になりました。また、必要に応じてオンラインを併用し、チーム・ディスカッションではMiroホワイトボード等のオンライン・ツールも活用しました。ここでは、昨年度に実施した授業やイベントの中から、基礎プログラムとオナーズプログラムそれぞれの主要科目およびメンターフォーラムについて紹介します。

■大学院基礎科目Ⅰ・Ⅱ

―チーム学習の基礎・実践（基礎プログラム授業科目）

大学院基礎科目Ⅰでは、大学院教育コースで養成する専門性を課題発見・解決に活かすために必要な能力「3+1の力」の理解を深め、その基礎となる創造的思考、批判的思考、リーダーシップなどを題材として、チームワーク力を伸ばす授業を重点的に行いました。

大学院基礎科目Ⅱでは、初回2コマの授業で専門職倫理について学びました。また、2回目以降では、チームで効果的・効率的に協働するためのプロジェクト・マネジメント（PM）の基礎を学ぶとともに、基礎科目Ⅰで修得した知識・能力および専門職倫理を活かしながら2つのプロジェクトを実践することでPMについて体得しました。夏タームにおける1つ目のプロジェクトは2021年度から採用している“How Can We Solve an Urban Brown Bear Problem in Sapporo?”と題するものですが、札幌市で問題となっている居住域へのヒグマの頻繁な出没に対するオリジナリティのある解決策の提示に取り組みました。自然と人間との共存というSDGsに該当するテーマであり、学生にとっても身近な問題であることから、学生の関心度の高い課題となっています。一方、夏タームの2つ目のプロジェクトは、2018年度から継続して取り上げている“Campus for Camp a Refugee Response Plan in Sapporo”という北大キャンパスを難民キャンプとして開放するプロジェクトです。「住居」、「食事」、「教育」の3つのトピックの中からどれか1つをチーム毎に選び、3年間の滞在期間中の最終目標を設定し、その目標達成に向けてPMを活用した計画作りに取り組みました。

冬タームでは、2つ目のプロジェクトとして新たに“Promote Hokkaido to the World”というトピックを採用し、各チームが北海道を世界に売り込むための独自の案を作ることに取り組みました。また、この案を実現するためのプロセスについてPMを用いて提示しました。最終回の授業では各チームの成果を発表しますが、2022年度冬タームはメンターの中島氏を招聘して発表に対する講評をいただくとともに、自身のPMを用いた実務経験に基づいた講演をしていただきました。

■大学院発展科目Ⅰ・Ⅱ

―課題解決・問題発見（オナーズプログラム授業科目）

大学院発展科目Ⅰでは、春・秋タームともにテーマの大枠をSDGsと定め、課題解決に取り組みました。春タームでは、“Some Solutions for Food Security”をテーマとし、人々が直面する食をめぐる問題を取り上げ、その解決策を検討しました。一方、秋タームでは、SDGsの17の目標の中からグループ毎に関心のあるものを選択し、それについて解決策を考え、ビジネスアイディアを検討しました。

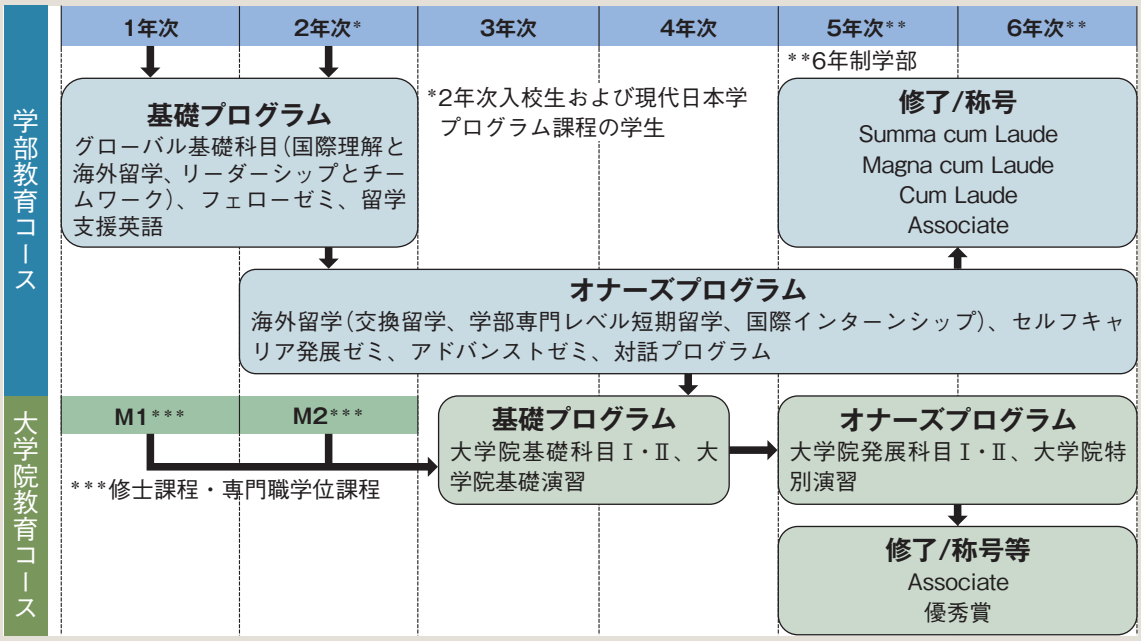
大学院発展科目Ⅱでは、一つのテーマ（夏ターム：Challenges for Foreign Workers in Hokkaido、冬ターム：Diversity in Society — As One Can Grow from Difference）を選定し、種々のインタビュー調査などのフィールドワークにより収集したデータの分析に基づき、インクルーシブな社会の実現に向けて考えるべき問題の発見に取り組みました。夏タームの授業では、社会の第一線で活躍されている企業の方に準メンターとして就任していただき、話題提供、授業中のグループワークやフィールドワークに関する助言、発表に対する講評などでご協力いただきました。学生に取っては、地方における外国人雇用を支援している企業の取り組み事例を参考にしながら、夏タームのテーマに関する問題発見に取り組むことができる良い授業となりました。

■メンターフォーラム

「キャリアパスを考える」というテーマで6月18日と12月17日の土曜日にメンターフォーラムを対面で開催しました。第1回目は7名、第2回目は6名のメンターに参加いただきました。2022年度からは学生が中心のメンターフォーラム実行委員会を立ち上げ、その企画から当日の進行に至るまで、学生が教員やオフィスのサポートの下で主体となって取り組んでいます。

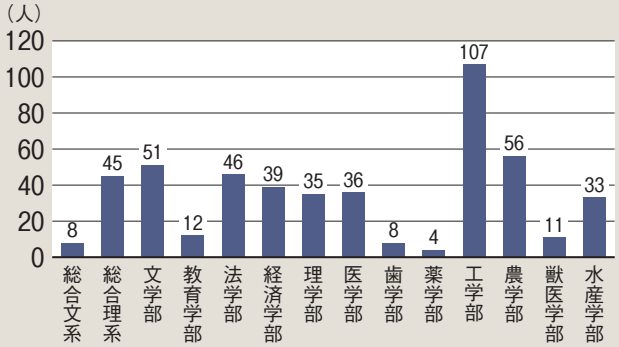
講演会では、メンター自身のキャリアや実社会での経験に基づくアドバイス等についてお話しいただきましたが、学生は多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に大いに刺激を受けていました。続く交流会では、学生は大学における研究活動および今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを受けることができました。メンターフォーラムは、学生のキャリア意識の醸成、社会的視野の拡大、人的ネットワークの形成にとって良い機会となっています。

新渡戸カレッジ入校から修了までの流れ

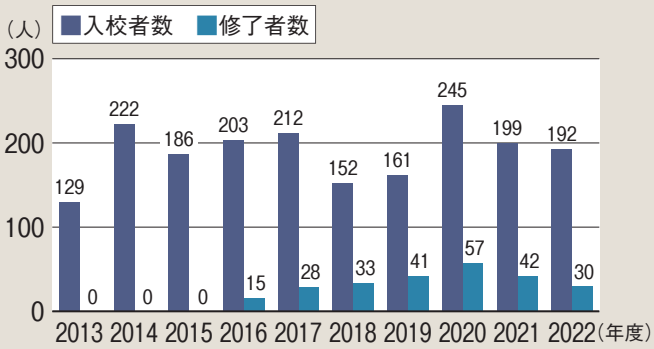


■学部教育コース

●2022年度学部別在籍者数(合計491名)



●入校者数と修了者数

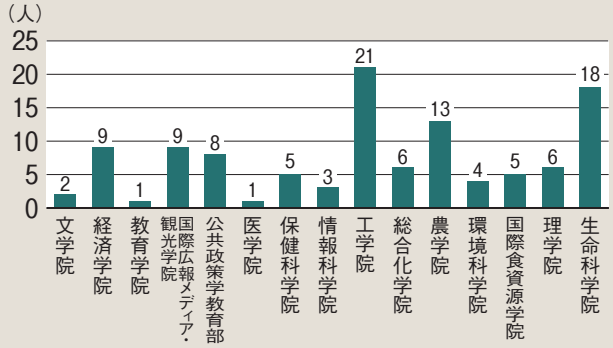


●学部教育コース修了者の進路(2022年度)

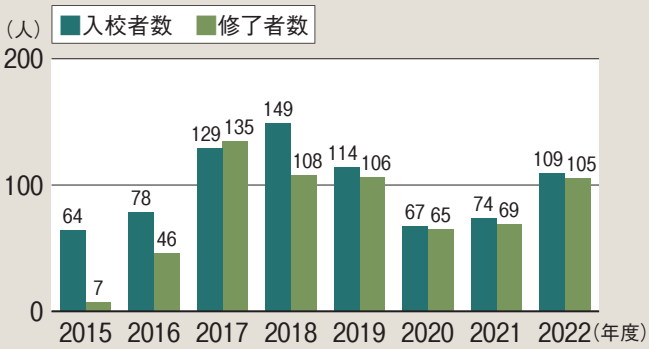
就職(一般企業)	6名
就職(官公庁)	2名
進学(本学大学院)	14名
進学(本学以外の大学院)	5名(国内)
未定	3名

■大学院教育コース

●2022年度学院別在籍者数(合計111名)



●入校者数と修了者数



●大学院教育コース修了者の進路(2022年度)

本学大学院在学中	88名
就職(一般企業)	10名
進学(本学大学院博士後期課程)	5名
未定	2名

フェロー・メンター・教員の紹介

留学してよかったこと

大塚榮子
フェロー
北海道大学名誉教授

北大に入学した1954年に医学部に薬学科が創設され、理類の定員が40名増えました。女子学生は全体で3%でした。2年次の10月に薬学科に移行すると女子は30%くらいでした。薬学なら北大を受験しても良いと親に言われた人もいました。それまで北海道で薬学を学ぶ所はなく、薬剤師の資格をとるには本州の私学に行くか長井長義の有機化学の伝統を受け継ぐ東大の薬学などに行く必要がありました。薬学に進学して驚いたことは守備範囲が広く講義も実験もびっしりでした。

がんは遺伝子の病気ということが分かりつつあった頃で、がんの薬を作るためには原因を調べる必要があるので、遺伝子がテーマになりました。学年進行で修士課程、博士課程ができましたので、興味のおもむくまま進学しましたが就職の当てはなく、核酸合成の最先端研究室に応募して運よく博士研究員に採用されました。世界中から来た若い研究者と友人になり、交流を続けられたのが一番良かったことのように思います。日本からの留学仲間ができることも重要でした。外国に住んでみるだけでも価値がありますが、いかに自分の国の事を知らないかに気がつきます。それだけでも留学の意味があると思います。

新渡戸との出会い

石川憲一
メンター
スリーエムジャパン(株)
取締役
常務執行役員

ちょうど5年程前、今まで社会で経験したことや学んだことを学生に伝えたいと思い始め、母校の北大に何か手伝えることがないかと問い合わせたところ、運よく新渡戸カレッジという素晴らしいプログラムに出会うことが出来ました。そして2019年から新渡戸カレッジのメンターとして活動させていただいています。私は学生時代、迷いながら理系に進みましたが、学部時代に決めきれずに大学院までいった後、研究、技術職ではなく文系職種（マーケティング）を選択しました。当時では非常に珍しい選択でありましたが、自分の意志を固めて動いて本当に良かったと思っています。多くの学生が理系、文系という括りで迷うことがあると思いますが、そこでの選択は問題ではなく、どちらを選んでも良い。最終的には、全ての経験が活きることを自分の経験談を含めて皆さんに伝えていきたいと思います。無駄な経験などは一つもなく、学問も、クラブも、サークル活動も、アルバイトも全てが人生の糧になると。そして、学生時代しか出来ないこと、北大ならではの経験を多くして欲しいと思っています。その中でも新渡戸カレッジは社会で役に立つことを学べる場として最高級だと思いますので、皆さんの参加を心からお待ちしております。

特任教員

内田治子(Ph.D.)
特任准教授
教育心理学

畑中貴美(M)
特任講師
欧州研究

肖　蘭(Ph.D.)
特任講師
教育学

シュルーター智子(Ph.D.)
特任助教
宗教学

WHITFIELD Dale Lee (M)
ホィットフィールド デール リー
特任助教
教育学

Marina LOMAEVA (M)
マリーナ　ロマーエヴァ
特任助教
環境科学

フェロー＆メンター

フェロー

石川めぐみ
CJ コミュニケーション　代表

石川裕一
(株)ぷらう　代表取締役社長
ジョンソンコントロールズ(株)
取締役

伊藤　慎
アルジェニクスジャパン(株)神経疾患領域マーケティング部門アソシエイトディレクター

井上修平
元双日執行役員・顧問
元シンフォニア・テクノロジー取締役

上田英樹
日本情報通信(株)　取締役上席執行役員
エンタープライズ第一事業本部長

大塚榮子
北海道大学名誉教授

大友俊彦
中外製薬(株)　オンコロジーLCM 部長

萱野　聡
(株)サクセスボード　代表取締役社長

佐々木亮子
(株)アークス　取締役

志済聡子
中外製薬(株)上席執行役員
デジタルトランスフォーメーションユニット長

渋江隆雄
元三井金属鉱業(株)　執行役員

島田元生
(株)ビスキャス　非常勤顧問

多田幸雄
(株)双日総合研究所　相談役

萩野　泉
(株)電通クロスブレイン
執行役員 CGO
(Chief Growth Officer)

日野峰子
会議通訳者

廣重勝彦
北海道大学東京オフィス副所長

藤田信良
(株)セレッソ大阪　取締役相談役

三村直己
(株)ロジック・リサーチ　シニアコンサルタント

村山和佳
(株)ズコーシャ　技術部課長

森　順子
(株)ハッピーアロー　代表取締役

メンター

石川憲一
スリーエムジャパン(株)
取締役・常務執行役員

OFOSU-TWUM Eric
(株)日立製作所　研究員

黒田垂歩
㈱ New Sight Tech Angels
最高執行責任者(COO)

佐伯百合子
(株)資生堂　研究員

中島　徹
15th Rock
Spirete (株)
Founder & General Partner
代表取締役

中原　拓
メタジェンセラピューティクス(株)
代表取締役社長

萩野　泉
(株)電通クロスブレイン
執行役員 CGO
(Chief Growth Officer)

藤井幸大
サンマルコ食品(株)
専務取締役
営業本部長兼
マーケティング本部長

前田美紅
(株)ニトリホールディングス
グローバル教育担当

RAVANKAR Abhijeet
北見工業大学　准教授

和田義明
衆議院議員

法人等略語：(株)株式会社、(公財)公益財団法人、(一財)一般財団法人、(一社)一般社団法人

教員からのメッセージ

学部教育コース

2022 年度 フェローゼミ支援教員からのメッセージ

亀野　淳

高等教育推進機構・高等教育研究部　教授

「フェローゼミ」は答えのない課題に対して、皆さんの斬新な発想や知識をフル回転させ、さらにそれをもとにグループとしての考えをまとめ上げるという、学部生にとってかなりハードルの高い内容となっています。その過程で知識・経験の重要性、グループで作り上げる楽しさ、意見の多様性、自分自身の未熟さなどを肌で感じてください。今後の学生生活や社会に出てから必ず役立ちますから。

ラフェイ，ミシェル

大学院文学研究院　教授

これまで４人のフェローの下で支援教員として参加してきました。フェローゼミでは、学生同士がじっくり話し合い、プレゼンテーションを作っていきます。参加するみなさんは、多様な観点に基づいて課題に取り組みつつ、結論をまとめなければなりませんが、その中で議論のための様々な能力が得られます。フェローもチューターも惜しみなくみなさんをサポートします。私は、そのサポートが届きやすくなる環境づくりを心がけていきたいと思います。

野澤俊介

高等教育推進機構・国際教育研究部　准教授

「フェローゼミ」はフェローの専門的・実践的知見に触れつつ具体的な研究課題に取り組むという、学生にとって貴重な学びの体験です。私はこれまでに二回、支援教員として参加しています。「問い」の吟味や方法論などについて助言する立場ですが、学生との対話からは多くの発見や気づきをもらうことができ、私にとっても大変有意義な科目であります。これからも学生の学びに貢献できるよう努めてまいります。

山畑倫志

高等教育推進機構・国際教育研究部　講師

新渡戸カレッジが提供する魅力的なプログラムの１つである「フェローゼミ」は、北大 OB の方々がフェローとなり、自身の経験に基づく授業を展開する刺激的な科目です。さらに、みなさんが多くのことを得られるようなしかけをたくさん用意しています。グループで作り上げるプレゼンテーションを発表する最終回のシンポジウムは、毎回大いに盛り上がります。楽しく、そして有意義な時間をみなさんと過ごせるのを心待ちにしています。

大学院教育コース

2022 年度 担当教員からのメッセージ

繁富（栗林）香織

大学院教育推進機構・教育プログラム推進部　准教授

2016 年 4 月に新渡戸スクールの特任准教授に着任し、2023 年 3 月に新渡戸カレッジを退任するまでの 8 年間を振り返りたいと思います。新渡戸スクールは修士・博士課程の学生を対象にしたプログラムで、前年度から始まった基礎プログラムの 2 期生から担当しました。また、翌 2017 年から始まる博士課程対象の上級プログラムの立ち上げを行いました。2019 年には新渡戸カレッジと統合され、カレッジの大学院教育プログラムの教員となり、様々な先生と協力しながらプログラムを発展させてきました。特任教員では、辻先生、今井先生、斎藤先生、我妻先生、王先生、ミハウ先生、リチャード先生、島田先生、みなさんにとっても懐かしい名前ではないでしょうか。新渡戸では多様な専門性や文化を持った学生との新しい出会いが多くあり、授業は、教員にとっても毎回とても刺激的で、新しい発見がありました。充実した日々はあっという間でした。

新渡戸はどの授業も斬新で面白いのですが、特に印象に残っているのは Creative thinking, Critical thinking, Leadership の授業です。『Technology』という言葉はこの 200 年ほどの間に大きく意味合いが変化してきたようです。Technology という言葉を自分で新しく定義し、それを用いて現代社会が抱えている問題を解決する案を創造しようという内容でした。新しいことを作り出すためには、これまでのアイディアを真似る、組み合わせる、さらに斬新なものへとジャンプすることなど、この授業を通して、自分が固定概念にとらわれていたことに気づかされるものでした。

新渡戸の教員に応募した理由は、米国・英国での研究や起業などの様々な経験を次世代を担う後輩に伝え、彼らの手助けができたらと思ったからでした。これから先も皆さんの力になれたらと思います。札幌に帰ってきたとき大学に立ち寄ったり、Facebook（Kaori Kuribayashi-Shigetomi で検索）のメッセンジャー等でいつでも気軽に連絡いただけたら嬉しいです。“Be confident, Be Ambitious, Unlash Your Potential” というのが初回授業で学生へ伝えるメッセージです。修了生には、自分を信じて、グローバル社会の中で様々な人とチームを組んで議論を重ねアウトプットをし、物怖じすることなく前進して行ってほしいです。

最後に、2023 年 10 月からは大学院教育推進機構教育プログラム推進部の教員になりこれからも北大にいる予定です。新渡戸という素晴らしいネットワークでこれからも皆さんと繋がっていきたいです。

新渡戸カレッジ同窓生の皆さんへ

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワークへの登録をお願いします！

- 下記の新渡戸カレッジのウェブサイトまたは QR コードから登録をお願いいたします。
- 得られた情報は、個人情報保護法に基づいて、当ネットワークが厳格に管理し、本人の同意なく外部に提供されることはありません。

https://ws.formzu.net/fgen/S23755582/

ウェブサイト・フェイスブックのアドレス

- ウェブサイト　「新渡戸カレッジ」
  https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/
- フェイスブック
  「Hokkaido University Nitobe College Alumni Network」
  https://www.facebook.com/groups/hokudai.nitobe.alumni.network/

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク（HU-NCAN）

北海道大学新渡戸カレッジ推進事務室　〒060-0817　北海道札幌市北区北17条西8丁目　TEL: 011-706-5414　E-mail: ncan@academic.hokudai.ac.jp

2023年12月1日発行